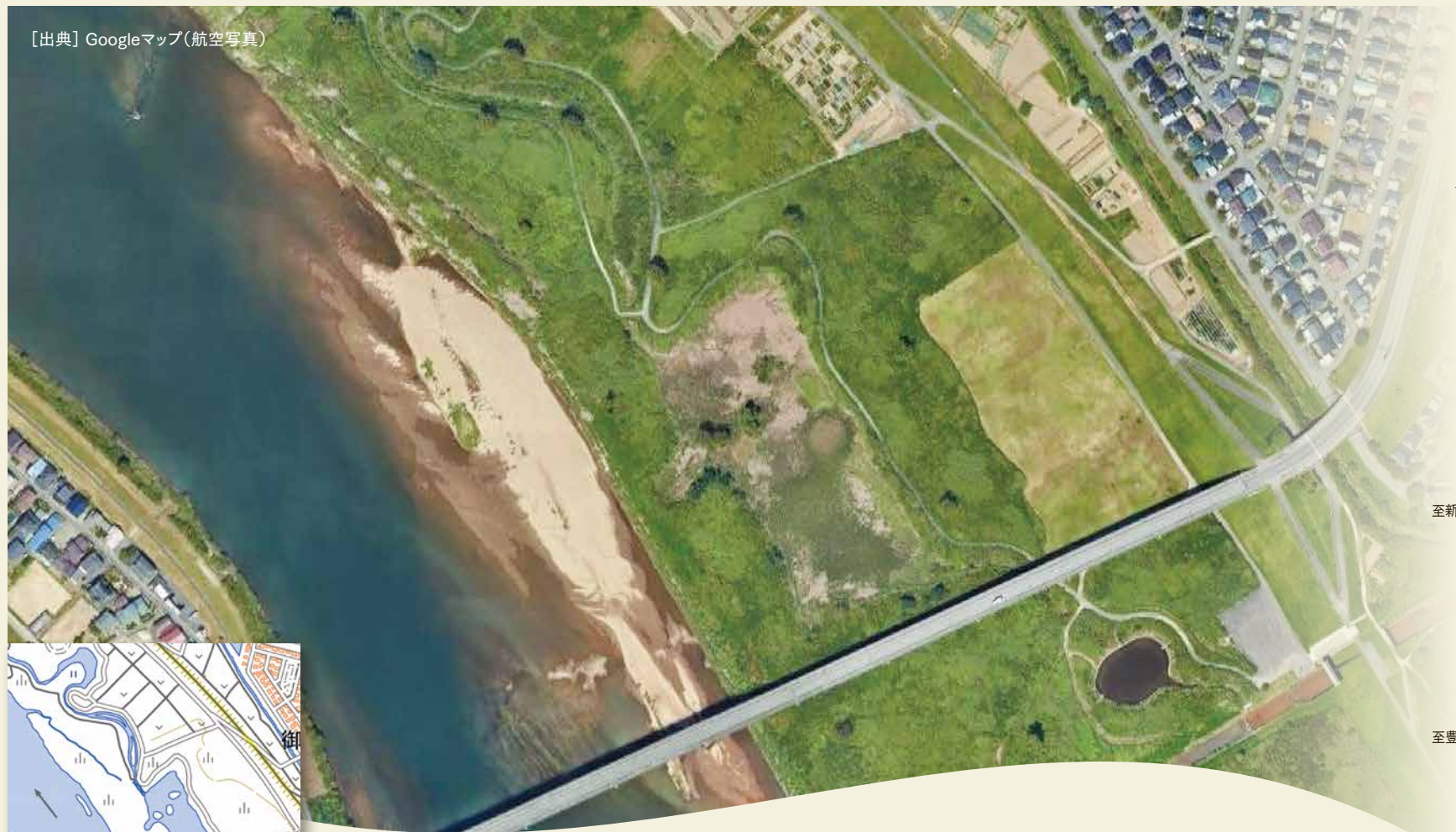




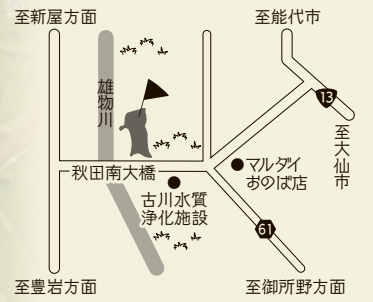
さまざまなストーリーを秘めた地域の街角を探訪します。



[出典] Googleマップ(航空写真)



[出典] 国土地理院ウェブ地図



古川水質浄化施設
[秋田市仁井田柳林]

古川水質浄化施設の池 [秋田市、秋田南大橋たもと]

見下ろせば 三二秋田県

航空写真中央の池の形、県民ならピンとくるはず。そう、わが秋田県の形をしているのだ。

場所は雄物川を挟んだ秋田市の豊岩石田坂地区と仁井田下新田・御野場新町地区を結ぶ秋田南大橋のたもとと右岸の河川敷。池は、二帯2キに及ぶ古川水質浄化施設の一部で広さは田んぼ24枚分に相当する約2・4畝。

浄化施設は、仁井田・御野場地区の急速な宅地化による生活排水などの影響で水質悪化が進んだ雄物川の支流・古川の浄化を目的に、国土交通省秋田河川国道事務所が1998年度に整備したが、下水道整備に伴い古川の水質も改善されその役目は終えている。

県の地形を模した池は、第2段階の浄化を担う「第1植生浄化池」と呼ばれる。沈殿池の水を湯沢市周辺の内陸南部の位置から取り込み、八峰町付近の沿岸北部の位置から第3段階の水路へと流す。池を流れる間に植物の働きでリンや窒素などを除去する役割を担っていた。

本県の形を印象づける男鹿半島の入り江が雄物川方



第1植生浄化池の鹿角市にあたる位置から望む秋田南大橋

向に延び、八郎湖、田沢湖、十和田湖をイメージした小島もあり、国土地理院のウェブ地図にもくっきりと載っている。だが、それなりに広い上、秋田南大橋の欄干には風よけが取り付けられているため橋上からは気付きにくいかもしれない。橋のたもとにほど近い御野場新町で精肉店「肉のろくふく」を営む菅原淳さん(51)は「河川敷に水がたまっている場所があることは知っていました。それがまさか秋田県の形の池だったとは…」と意外な様子。

浄水施設周辺には散策路やジョギング、サイクリングを楽しめるコースがあり隠れた親水スポットでもある。ちなみに、浄化の第4段階を担うのは地元名産の秋田蒟をイメージした浄化池だという。上空からの景色を想像し散策するのも面白い。